




## 【岐阜女子大学】メタデータ項目と記述内容

	メタデータ項目	メタデータ記述欄
1	ID	
2	表題名	沖縄の生活文化
3	資料名	花ブロック
4	内容分類	郷土・歴史
5	索引語	沖縄、生活文化、住、建築、花ブロック、コンクリート
6	説明	<p><b>■沖縄独自の建築資材 花ブロック</b></p> <p>花ブロックとは沖縄の建築に使用される装飾的なコンクリートブロックをさし、沖縄独自の建築材料である。主に外壁に用いられ、透かし模様が施されている。これにより通気性を保ちながら沖縄の強い日差しを遮る機能があり、また、その透かし部分から朝昼夕と時々の光が差し込み、夜は内側からの光の陰影を楽しめるというデザイン性ももちわせている。</p> <p>周囲の自然や環境を大切にさりげなく生活に取り込む沖縄のあたたかさが感じられる。</p> <p>沖縄県のある初期の花ブロックを利用した有名な建築としては、1958年に建築された聖クララ修道院（与那原町与那原）、1981年に建築された名護市市役所（名護市港）などがある。</p> <p><b>■花ブロックの機能性・デザイン性と魅力</b></p> <p>①花ブロックの機能性</p> <p>花ブロックの機能は3つある。1つは亜熱帯気候に属する沖縄の強い日差しから守りながらも風通しが遮光性や遮熱性に優れている点である。これにより、適度に光が入りつつ、暑さが内にこもらない。2つ目は、外壁として利用した際、空洞部分があるため内側に一定の光が入りながらも、プライバシーを守ることのできる点である。内側が暗くなりにくいことから防犯にもなる。3つ目はコンクリート素材であることから台風の被害からも守ってくれる頑丈さがある点である。</p> <p>近年では、カフェ等の店舗内の仕切として、客席と客席の間や、通路と客席の間のパーテーションとしても活用され、若者にも注目されつつある。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>(左) カフェのパーテーション (右) 回廊</p>

		<p><b>②花ブロックのデザイン性</b></p> <p>花ブロックの製造を行っている創業 67 年の合資会社 山内コンクリートブロックによると、総業当初は 3~4 種類ほどしかなかったが、現在は 100 種類近くのデザインがあり、四角や丸、斜め線やバツ印、ひし形などを組み合わせることで多様化している。他にも緋をイメージした型やハイビスカス、蝶など現代のニーズにあわせて増えており、現代の建物の景色に馴染み、一層デザイン性が高まっている。多様なデザインがあるため、花ブロックを取り入れることで建物全体が個性的になったり、一部に取り入れることで明るい雰囲気になったりする。</p> <p>日差しが強い沖縄では、透かし模様が施されている部分から朝昼夕と時々々の光が差し込み、夜は内側からの光の陰影を楽しむことができる。</p> <p><b>③花ブロックの魅力</b></p> <p>花ブロックの魅力は沖縄独自の建築材料であり、沖縄のオリジナリティと、亜熱帯気候である沖縄における台風対策や湿気対策、風通しの良さなど機能性と、沖縄ならではのデザイン性を兼ねそろえている点である。さらに沖縄戦からの復帰にも関わる沖縄県民の住環境を構成する歴史的な要素もあり、沖縄の建築に欠かせない存在である。近年では室内のパーテーションやインテリアとしても利用され、幅広い年齢人に親しまれる機会が増えている。</p>
7	形式	静止画(jpg)
8	氏名	撮影者：*****
9	時代・年	撮影日：2025/02/09
10	地域・場所	沖縄女子短期大学（〒901-1304 沖縄県島尻郡与那原町東浜 1 番地）
11	利用条件	表示 4.0 国際(CC BY 4.0)
12	関連資料 1	なし
13	権利者	岐阜女子大学
14	協力者	なし
15	登録日	2025/02/11
16	登録者	與那嶺 叶
17	ファクトデータ	 <p>circd085s-0001.jpg (回廊)</p>

18	* 特色	<p><b>◆花ブロックの考案者 建築家仲座久雄</b></p> <p>仲座久雄氏（1904-1962）は、1904年2月10日に沖縄県中城村字津覇出身の建築家で、沖縄建築界に多大な貢献をした。1921～1933年にかけて大阪で勤務しながら、関西工学校建築科に通った。1933年に沖縄に帰郷し、1936年から1937年には守礼門の解体修理工事に携わり、文化財建造物への関心を深め、この経験がその後の建築活動に大きな影響を与えたといわれている。</p> <p>戦後1946年、家を失い故郷に戻れない多くの人々が困窮する中、米海軍政府は短期間での民家建設を求め、仲座氏はその設計を任せられ、米国式の2×4インチ規格木材を基盤として用い、工場でフレームを作り、現場でテント・梱包材・茅などのあり合わせの材料を用いて仕上げるプレハブ住宅の設計をした。この住宅は「キカチャー（規格屋）」とよばれ、1946年から1949年にかけて約7万5000戸が建設された。しかし、規格住宅は大工工事の経験がない人でも短時間で設計できたが、台風の影響で多くが倒壊してしまった。これを受けて仲座氏は建物の非木造化を進め、地場材を用いた石造、赤瓦工場を活用した煉瓦造の住宅や学校等を建設した。</p> <p>さらに、1953年には学校新築時のコンクリート使用を義務化し、沖縄の建築業界における新たな基準を作り上げ、1954年には米国民政府の依頼を受けてモデル農家住宅を設計し、すべての建物にコンクリートを使用することを推進した。この時期に仲座氏は花ブロックを考案したといわれており、沖縄建築における新しいデザイン要素として広まった。1955年には沖縄建築士会を設立し、初代から第5代会長を務めるなど、沖縄の建築業界の発展に尽力した。</p> <p><b>◆花ブロックと戦後沖縄の建築</b></p> <p>戦後の沖縄はアメリカの統治下にあり、米軍施設や住宅を作るためにアメリカから持ち込まれたのがコンクリートブロック製造機である。当時の沖縄の建築家たちはカタログを取り寄せ自分でコンクリートブロック製造機を作成した。1954年頃は手すりや窓の格子は鉄を使っていたが、塩害で腐食が早く、維持費用がかかったという。しかし、コンクリートは耐火性・耐久性に優れ、さびることがないため沖縄の建築には欠かせない建材となった。この頃、仲座氏により花ブロックが生まれる。</p> <p>1954年に作られた沖縄教育ビル（場所不定）の屋上の手すりは棒状のプレキャストコンクリートで、デザイン的な特徴はないが、同年に作られた當間和歳裁教習所（那覇市松尾）の2階手すりには垣根型、敷地を囲む塀には4ヶ合わせ丸型が使われており、これらが現在の花ブロックの原型であるとされている。</p>
19	* 活用支援	
20	* 利用分野	教育、生涯学習、地域学習、観光
21	* 改善結果	
22	* 処理プロセス	
23	* 関連資料 2	

